

＼みんなで考えよう！／

# オーノまちづくり

ワークショップニュース

vol.  
2



相模原市は、相模大野駅周辺地区を対象に、地域住民や事業者のみなさまが主体となって実現する「まちづくりのアイデア」を検討するため、全5回のワークショップを企画しました。

このワークショップでは、「相模大野に住む人・来た人にとって居心地がよいまちづくり」をコンセプトに、『相模大野をどんなまちにしたいか＝まちのコンセプト』や、『どのような場所で、どのような盛り上げができるか＝公共的空間の活用方策』など、様々なアイデアを出し合い、まとめること

を目指します。

第1回では、相模大野の良いところを100個あげ、20年後のわたしが相模大野とどう関わっていくのか、未来の相模大野をイメージしました。

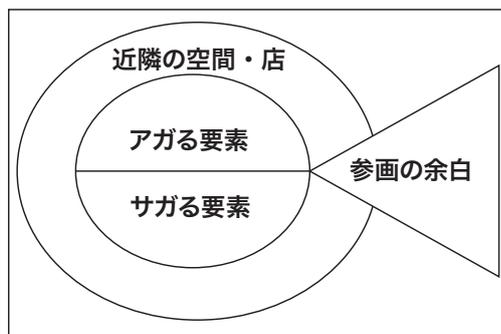
3月27日（日）の第2回ワークショップでは、ファシリテーターの小泉瑛一さんの案内のもと、「“三核”構造から市民“参画”の構造へ」をテーマに開催されました！

今回のオーノまちづくりワークショップニュースでは第2回ワークショップの様子を紹介していきます。

# 「さんかく構造」を分析しよう！

相模大野では、駅の北口に3つの中心拠点となる「核」を配置して、まちの回遊性向上と面的なにぎわいを創出する「三核構造」をまちづくりの考え方として取り組んできました。

今回のグループワークでは、三核構造の「商業・文化の核」、「魅力づくりの核」、「商業・交通の核」の3つの核の中から1つを取り上げ、市民参画の視点からこの3つの核を分析しました。



今回のワークシートの内容はこちら！グループでこの図を埋めながら、「さんかく構造」を分析していきます。

## 1. 近隣にある空間・店はなんだろう



選んだ核の近隣には何があるのかを挙げてみるところから、ワークショップはスタートしました！

みんなが知っているお店から自分だけしか知らない小さな空間まで、思いついた場所を付箋に記入して、ワークシートに貼っていました。

## 2. アがる要素・サがる要素を出してみよう

次に、核やその周辺の施設などを利用するうえでの気分がアがる・サがる要素を考えました。

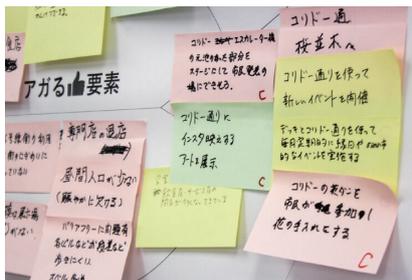
「グリーンホールでイベントを開催しているので遠方から人が来る」というアがる要素が出ると、その一方で「周囲に飲食店が少なく、滞在時間が短い」というサがる要素が出てくるなど、まちづくりの課題が多く見つかりました。



## 3. 「参画の余白」を探そう

「まちづくりに市民参画できるスペースは既存の与えられた場所だけでなく、まだ利用されていない場所もある。まちの余白を見つけて声をあげることができる」と話す小泉さん。利用できそうな空間、やってみたいことを「参画の余白」として考えていきました。

様々な視点で思いつくアイデアを共有し合ったところ、「外務省研修所をリモートワークの場所として利用」、「中央公園でドライブシアター」、「中央公園にキッチンカーを出す」、「ポーノの1階で朝市を実施する」など、多くの意見があがりました。



グループワークの様子

各グループが考えた「参画の余白」は1箇所に集められて「カルチャー」、「ワーク」、「アウトドア・スポーツ」、「グルメ・マルシェ」、「子育て」の5つの分野に分けられました。分野ごとに分かれたチームでやってみたいことや時期、場所を話し合い、次回5月29日(日)のワークショップでそのテーマに沿って『まち歩き』をする予定です！



「参画の余白」と表しましたが、余白ではなく、アイデアがまちを埋め尽くすほど広まってほしいなと思います。市民参画でグイグイまちをひっくり返して変えていければ良いなと思います。

ファシリテーター

小泉瑛一（こいずみよういち）さん



「参画の余白」で集まったアイデアがこれからの相模大野を盛り上げるきっかけになればと思います。実現できるアイデアがこのワークショップの中で生まれてくることを期待します。

菅谷貴子（すがやたかこ）南区長

みんなで考えよう！

オーノまちづくりワークショップニュース vol.2

発行日 2022年4月22日

作成 さがまち学生クラブ 大津優衣

発行 相模原市 南区役所地域振興課

TEL:042-749-2135

E-mail: m-chiikishinkou@city.sagamihara.kanagawa.jp